

日工會報

第22号
平成27年2月27日
発行 日立工業高校同窓会
発行者 同窓会事務局
日立市城南町2-12-1
☎ 0294 (22) 1049
FAX 0294 (21) 4591
印刷所 SATOプリント
☎ 0294 (33) 0883

会長挨拶

同窓会会長 長谷川 宏



同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より、同窓会活動にご理解をいただき、また温かいご支援とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて昨年を振り返りますと、安倍内閣の「三本の矢」を始めとする経済政策が徐々に動き始めた年でした。消費税率の引き上げや円安状況の中で経済政策の方向を問う総選挙が昨年十二月二日公示で実施され、国民の

信任を受けた第三次安倍内閣が発足、アベノミクス効果に経済再生の期待が高まりました。

その一方で、東日本大震災の復興が加速するなか、激甚化する気象災害・自然災害への対応は急務でありインフラ老朽化対策と併せて安全・安心な国土づくりは喫緊の課題であると深く考えさせられました。また、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた都市機能の充実や地域の創生は国力の維持・発展を図る上で我々の身近な重要なテーマとなっております。

母校の所在地である日立市でも大きな出来事がありました。多くの同窓生が活躍しておられる日立製作所の火力部門が三菱重工と統合という大きなニュースがありました。名目にとらわれず次世代へ繋ぐ大きな舵取りをしたのだと思います。ダー

ウインの言葉に「最後まで生き残る生物はというのは、頭のよいことや力の強い生物ではなく、変化に対応できる生物が生き残る」と記しました。

時代の変化とそれを求める組織のなかで、私どもが憂慮すべきことは将来の担い手の育成であり、ものづくり復活という新聞報道もある中、メイド・イン・ジャパン復権には、資源の少ない我が国が先進国の仲間入りを果たしたのは技術力であり、工業高校を卒業した技術者が原動力となっております。元気で豊かな地方の創生といわれる中、地域産業を支える工業高校生への期待は高まっております。後輩諸君には、どんな変化にも対応できる柔軟性と基礎力を身につけ、社会で活躍の場に立ってほしいと思っております。

母校の様子というと、今年も

来春の卒業予定者の就職率が九十八%と高い数字に表れました。生徒諸君の努力は勿論であり、先輩諸君のご尽力の賜でもあります。第五二回技能五輪全国大会機械製図部門で卒業生の白井耕太郎君（日立ハイテクノロジズ）が銀賞に輝き、後輩諸君にチャレンジ精神の大切さを託していただきました。

また、今年一月二十五日に行われた第六三回勝田全国マラソン大会で卒業生の千田洋輔君（日立物流）が初優勝を飾り参加数一万四千九百九十人の頂点に立ちました。日立電線から日立物流へと変わり一方ならぬご苦勞があったかと思われ、誠に見事であり、在校生の活躍は、母校の近くの助川小学校に課題研究の作品を呈し喜んでいただきました。「地域社会に貢献できる工業技術」を考え、アンケート結果から遊具などを製作したものです。母校ならだと誇らしく思いました。陸上部の関東高等学校及び関東陸上選手権（相模原市）・関東駅伝競走大会（栃木県佐野市）出場。サッカー部の県選手権大会出場（3回戦）関東茨城県大会出場（ベスト16）。写真は茨城県高等学校総合文化祭写真部門で優秀賞に選ばれ、全国高等学校総

合文化祭に県代表で出品される成績を残しました。また自動車部が茨城県省エネカー燃費競技大会で1位2位を独占し、第三四回本田宗一郎杯HONDAエコマイチャレンジにおいて全国一五〇チーム中8位の入賞を果たしました。記録は1つ1433kmでした。

我々同窓生にとって母校のさらなる発展と活躍は何時も勇気づけられ、励みになるものです。同窓会の各地域支部や職域支部のより一層のご努力により、今後も魅力ある活動を継続して行い、さらに広めていく必要があります。

平成二十六年六月七日に記念基金管理運営委員会及び幹事会、六月二十一日に同窓会総会が開かれ、同窓会各事業報告などの報告がなされました。この間にも役員会などを開き、意見の調整などに当たっていただきました。御多忙中、誠に有難うございました。

最後になりますが、同窓会会員の皆様にはこれからもご協力ご支援をお願い申し上げますとともに、皆様のますますのご健勝を御祈念申し上げます。